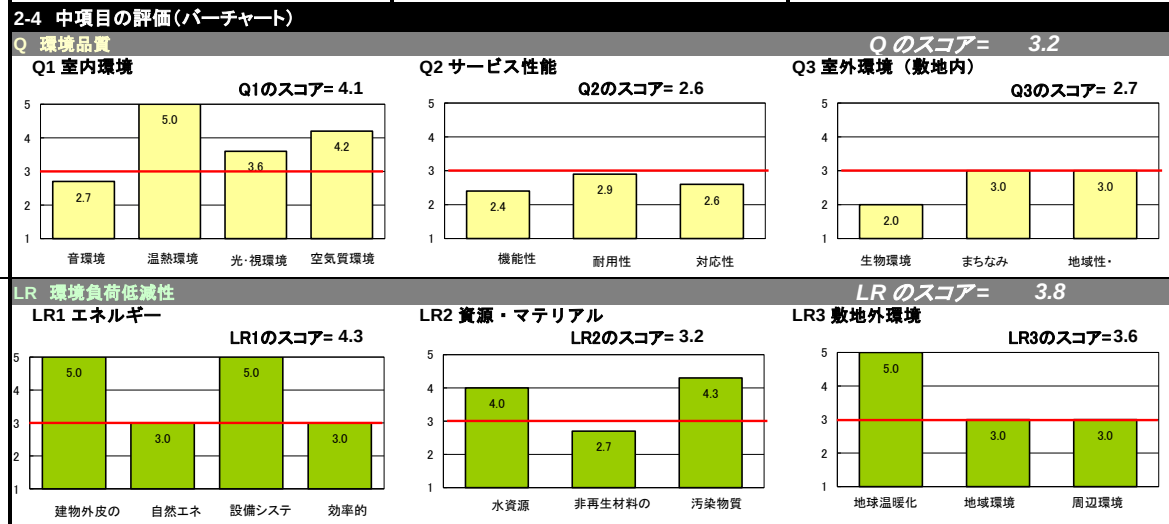
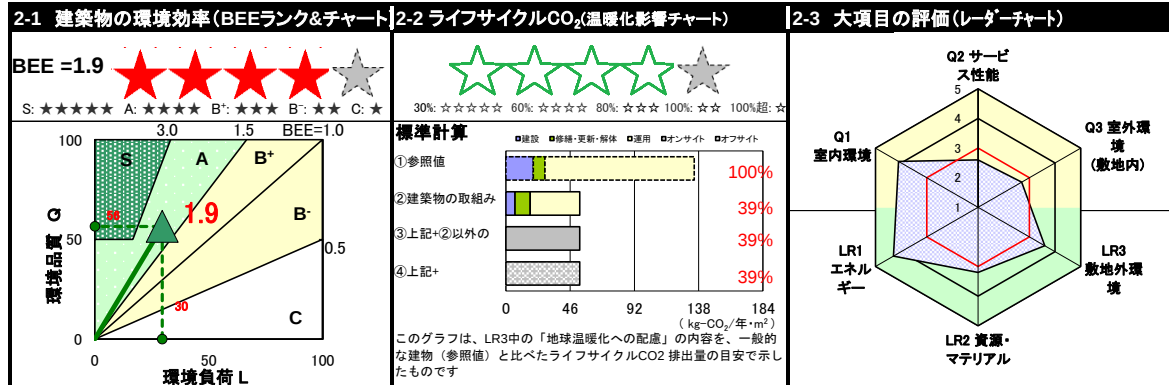


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	県営大脇住宅A棟	階数		
建設地	愛知県豊橋市大脇町字大脇76-1の一部、字大脇/谷4-1の一部	構造		
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員		
気候区分	7地域	年間使用時間		
建物用途	集合住宅	評価の段階		
竣工時期	2030年5月 予定	評価の実施日		
敷地面積	7,036 m ²	作成者		
建築面積	800 m ²	確認日		
延床面積	4,561 m ²	確認者		



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	5.0	③敷地内の緑化
		2.0
		外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
②資源の有効活用	2.8	34.7 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
④地域材の活用	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数= $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた面}}$ × 100建物緑化指数= $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
県営大脇住宅A棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体		
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点		重み係数	
Q 建築物の環境品質									3.2	
Q1 室内環境					0.40			-	4.1	
1 音環境			0.1	3.0	0.15	2.7	2.7	1.00	2.7	
1.1 室内騒音レベル			3.0	3.0	0.50		3.0	0.50		
1.2 遮音			0.5	3.0	0.50		2.4	0.50		
1 開口部遮音性能			-	3.0	1.00		3.0	0.30		
2 界壁遮音性能			-	3.0	-		1.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	-		3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	-		3.0	0.20		
1.3 吸音			-	3.0	-		3.0	-		
2 温熱環境			0.3	-	0.35	5.0	5.0	1.00	5.0	
2.1 室温制御			-	-	-	5.0	5.0	1.00		
1 室温			3.0	-	-		-	-		
2 外皮性能			3.0	-	-		5.0	1.00		
3 ゾーン別制御性			3.0	3.0	-		-	-		
2.2 湿度制御			3.0	-	-		-	-		
2.3 空調方式			3.0	-	-		-	-		
3 光・視環境			0.2	2.4	0.25	3.7	3.7	1.00	3.6	
3.1 昼光利用			0.3	3.0	0.30	4.0	4.0	0.35		
1 昼光率			3.0	3.0	0.60		5.0	0.50		
2 方位別開口				-	-		3.0	0.30		
3 昼光利用設備			3.0	3.0	0.40		3.0	0.20		
3.2 グレア対策			0.3	2.0	0.30	4.0	4.0	0.35		
1 昼光制御			5.0	2.0	1.00		4.0	1.00		
3.3 照度			3.0	1.0	0.15		-	-		
3.4 照明制御			3.0	3.0	0.25		3.0	0.29		
4 空気質環境			0.2	4.2	0.25	4.2	4.2	1.00	4.2	
4.1 発生源対策			0.6	5.0	0.60	5.0	5.0	0.63		
1 化学汚染物質			3.0	5.0	1.00		5.0	1.00		
4.2 換気			0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38		
1 換気量			3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
2 自然換気性能			3.0	3.0	-		3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
4.3 運用管理			-	-	-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視			3.0	3.0	-		-	-		
2 喫煙の制御			3.0	3.0	-		-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-	-	2.6	
1 機能性			0.4	3.0	0.40	2.4	2.4	1.00	2.4	
1.1 機能性・使いやすさ			0.4	3.0	0.40	2.0	2.0	0.60		
1 広さ・収納性			3.0	3.0	-		3.0	-		
2 高度情報通信設備対応			3.0	3.0	-		2.0	1.00		
3 バリアフリー計画			3.0	3.0	1.00		-	-		
1.2 心理性・快適性			0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.40		
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	3.0	-		3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース			3.0	3.0	-		-	-		
3 内装計画			3.0	3.0	1.00		3.0	0.50		
1.3 維持管理			0.3	3.0	0.30	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計			3.0	3.0	0.50		-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-	-		
2 耐用性・信頼性			0.3	2.9	0.31	-	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.4	3.0	0.48		-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80		-	-		
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20		-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	3.1	0.33		-	-		
1 躯体材料の耐用年数			-	5.0	0.23		-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			-	2.0	0.23		-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.09		-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08		-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			-	4.0	0.15		-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	2.0	0.23		-	-		
2.4 信頼性			0.1	2.6	0.19	-	-	-		
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20		-	-		
2 給排水・衛生設備			3.0	2.0	0.20		-	-		
3 電気設備			3.0	3.0	0.20		-	-		
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20		-	-		
5 通信・情報設備			3.0	2.0	0.20		-	-		

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	2.6	2.6	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり			-	-	-	2.2	2.2	0.50	
1 階高のゆとり			-	3.0	-		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00			-	
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30		-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			-	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30		-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			-	3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.8
LR1 エネルギー					0.40		-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級5	3.0	5.0	0.33		-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17		-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.78	3.0	5.0	0.33		-	5.0
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17		-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	-		-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	-		-	
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				-	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル					0.30		-	-	3.2
1 水資源保護				0.1	4.0	0.15		-	4.0
1.1 節水				3.0	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			節水型洋風大便器を採用	0.6	4.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			雨水貯留槽を設置し、植栽への散水に利用	3.0	4.0	1.00		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	-		-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63		-	2.7
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			分別が容易な内装(パネル工法)	3.0	4.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22		-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	5.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			発泡剤にフロン・代替フロンガスを使用していない。A種1Hを採用している。	-	5.0	1.00		-	
3 冷媒				3.0	-	-		-	
LR3 敷地外環境					0.30		-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮			① ライフサイクルCO2排出率39%	-	5.0	0.33		-	5.0
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			適切な設置台数、介護車用駐車場の設置、交差点から離れた位置に乗り場設置	-	5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	
1 騒音			独自	-	3.0	1.00		-	
2 振動			独自	-	-	-		-	
3 悪臭				-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-		-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策				-	3.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート
県営大瀬住宅A棟

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいも版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	2.8
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:34.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 県営大脇住宅A棟

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 既存の5階建て共同住宅から8階建て中高層共同住宅へと住環境を整えつつ、敷地周辺への日照について配慮を行い、緑化に努めた。また、劣化対策、省エネルギー対策も行い耐用年数の高い建築として環境に配慮した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 内装は全面的にF☆☆☆☆、特記仕様書によりホルムアルデヒド以外のVOCの使用制限を規定している。適切な換気計画や断熱、遮音性能を有し、住環境と健康に配慮している。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 公営住宅として、3世代(75～90年)を想定して劣化対策等級3(構造躯体等)の品質を確保している。共用部のバリアフリー化、住戸トイレや脱衣室の手摺設置など高齢者等に配慮した。また各住戸は、TEL、TVを設置している。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 駐車場車止め先を芝張にするなど緑化に努め、児童公園の一部は子供の利用に配慮し芝張とした。歩道・駐車場は透水性舗装としている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 住戸の南北2面が、外気に面しており、採光、通風を考慮した。共用部照明器具のLEDタイプ採用など環境対策を行っている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体と仕上材が容易に分別可能となっている。土間下、基礎下には、RC40材を使用した。雨水の散水利用のための貯留タンクを設置している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 介護車専用駐車スペースを設けている。分別集積可能なスペースのあるゴミ置き場を設置している。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 特になし。